

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年5月6日(2010.5.6)

【公開番号】特開2009-8776(P2009-8776A)

【公開日】平成21年1月15日(2009.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2009-002

【出願番号】特願2007-168486(P2007-168486)

【国際特許分類】

G 09 G 3/22 (2006.01)

H 04 N 9/12 (2006.01)

G 09 G 3/20 (2006.01)

【F I】

G 09 G 3/22 H

H 04 N 9/12 A

G 09 G 3/20 6 3 1 U

G 09 G 3/20 6 4 1 P

G 09 G 3/20 6 4 2 A

G 09 G 3/20 6 7 0 J

G 09 G 3/20 6 1 1 H

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月18日(2010.3.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の表示素子と、

前記複数の表示素子のあいだの輝度むらを低減するために画像データを補正する補正回路と、を備え、

前記補正回路は、

駆動時間に対する輝度の変化特性を表す第1の特性データを、前記複数の表示素子のそれぞれについて、記憶する第1の記憶部と、

前記表示素子の駆動時間に相関のある値を表しており、前記表示素子が駆動されると更新される、駆動時間データを記憶する第2の記憶部と、

前記第1の特性データと前記駆動時間データとに基づいて、前記複数の表示素子のそれぞれに対応する補正值を算出する算出部と、を備えることを特徴とする画像表示装置。

【請求項2】

前記第1の特性データは、所定の測定期間のあいだ表示素子を駆動し、該表示素子の輝度または輝度と相関のある物理量を測定することによって得られた測定値に基づいて、算出されたデータであること

を特徴とする請求項1に記載の画像表示装置。

【請求項3】

前記表示素子は蛍光体を有し、

前記補正回路は、駆動時間に対する前記蛍光体の劣化特性を表す第2の特性データを記憶する第3の記憶部を有し、

前記算出部は、前記第1の特性データと前記第2の特性データと前記駆動時間データとに基づいて、前記複数の表示素子のそれぞれに対応する補正值を算出することを特徴とする請求項1または2に記載の画像表示装置。

【請求項4】

前記駆動時間データは、前記算出部が前記補正值を算出する際に2以上の表示素子に共通に用いられること

を特徴とする請求項1乃至3のいずれか1項に記載の画像表示装置。

【請求項5】

前記複数の表示素子は、駆動時間に対する輝度の変化特性が互いに異なる表示素子を含んでおり、

前記補正值は、前記変化特性の差に起因して生じる輝度むらを低減するための補正に用いられること

を特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の画像表示装置。

【請求項6】

複数の表示素子を有する画像表示装置の製造方法であって、

前記複数の表示素子のそれぞれについて、所定の測定期間のあいだ表示素子を駆動し、該表示素子の輝度または輝度と相関のある物理量を測定する工程と、

前記測定によって得られた測定値に基づいて、駆動時間に対する輝度の変化特性を表す第1の特性データを、前記複数の表示素子のそれぞれについて、算出する工程と、

前記算出された前記第1の特性データを、前記画像表示装置の記憶部に格納する工程と、

を含むことを特徴とする画像表示装置の製造方法。